

第3回 ESGファイナンス・アワード・ジャパン



環境サステナブル企業部門 特別賞

株式会社ブリヂストン

言葉とストーリーの工夫で、価値・インパクトを伝える



G環境戦略推進部 部長
中島 勇介氏

—貴社は、「生物多様性の保全と持続可能な利用への貢献」の観点から、特別賞を受賞されました。受賞理由となった取り組みをご紹介いただくとともに、特別賞の受賞についてのコメントをお聞かせください。

ブリヂストングループは、ビジョンとして掲げる「2050年サステナブルなソリューションカンパニーとして社会価値・顧客価値を持続的に提供している会社へ」の実現に向けて、サステナビリティを中核に据えた「中長期事業戦略」を策定しています。また、「環境宣言」に「自然と共生する」、「資源を大切に使う」、「CO₂を削減する」の3つの活動を掲げています。

今回の受賞に繋がった「自然と共生する」活動においては、企業と生物多様性イニシアティブとも連携しながら、事業活動と生物多様性との関係性を定性・定量的に把握し、優先課題を特定した上で、長期目標である「生物多様性ノーネットロス」に向け、取り組みを進めています。

優先課題の一つである取水によるインパクトの改善に向けては、公平かつ持続可能な水の利用のための「ウォーターセキュリティポリシー」に基づき、水ストレス地域に立地する生産拠点を中心に、2030年までにそれぞれの地域環境に応じた具体的なウォーターセキュリティプランを策定・実行しています。

タイヤの主要な原材料の一つである天然ゴムの持続可能な使用に向けて、2023年までに天然ゴムの購入地域情報を100%収集する目標を掲げるとともに、持続可能な天然ゴムのためのプラットフォーム（GPSNR）等の業界のイニシアティブや世界自然保護基金（WWF）との協働を進めています。

また、「生物多様性貢献活動推進プログラム」では、環境教育の実施件数、生息地の保全面積など、9つの活動指標を用いて各生産拠点における貢献レベルに応じた社内認証、活動事例の共有を行うことで、世界中で生物多様性貢献活動を推進しています。当社グループは、より良い地球環境を将来世代に引き継ぐことへとコミットしており、今回の受賞を励みに更に活動を推進し、貢献の拡大を図っていきます。

—今年の貴社の環境/サステナビリティ情報開示で注目すべきポイントをお教えてください。

ブリヂストングループは、本年度より「Bridgestone 3.0 Journey Report(統合報告2022)」を発行しています。今年3月に制定した「Bridgestone E8 Commitment」を軸に、当社グループがビジョンに向けた変革を加速し、皆様と共に価値を創出していくという姿勢や、事業戦略とサステナビリティを統合した様々な活動についてご理解頂き、共感から新たな価値を共に創造する共創のきっかけとするために、次の領域で、情報開示を強化しています。

- ①バリューチェーン全体で、カーボンニュートラル化、サーキュラーエコノミーの実現へ向けた取り組みとビジネスモデルを連動させる「サステナビリティビジネス構想」の実現に向けた取り組みの進捗
- ②自然との共生や地域との共生など、中長期的な価値創造を支える「信頼の醸成」に向けた取り組み
- ③人権、サステナブル調達など「価値創造の基盤」における考え方、目標・KPIや具体的な取り組み

—企業規模や業種特性に応じた特定の重要な環境課題等に対し独自性のある取り組みを進めている/進めようとしている企業の皆様に、情報開示等についてアドバイスがあればお願いいたします。

ブリヂストングループは、経営の中核にサステナビリティを据え、ビジョンの実現に向けて新たなジャーニーに歩み出しています。どのようなビジョンを描いているか、サステナビリティの取り組みを通じて社会にどのような価値、インパクトをもたらそうとしているのか、分かりやすい言葉やストーリーで示すことが大切だと考えています。また、ステークホルダーと双方向のコミュニケーションを図り、頂いたフィードバックを、取り組みの進化・深化、情報開示の充実化に活かすことが、活動の改善に繋がると思います。